

2015年3月期上期決算説明会 主な質疑応答

日時：2014年11月11日13:00～14:30
場所：WTCコンファレンスセンター
出席者：代表取締役 社長 清水洋史
取締役常務執行役員 財経本部長 寺西 進
取締役常務執行役員 グローバル戦略本部長 久野貢
取締役常務執行役員 事業本部長 木本 実
取締役執行役員 営業本部長 池田 正史

Q チョコレート用油脂(CBE)の来期の価格見通しはどうか。

CBEについて、海外の大口取引先との交渉はこれからである。
今上期の実績は上回る見通し。

Q CBEの数量好調について、市場自体が増加しているのか、市場でのシェアを伸ばしているのか。稼働率は改善してきているのか。

高値のココアバターからの置き換えを背景に、CBEのマーケットが広がっている。
不二グループのCBEの工場稼働率も改善している。

欧米でも、需要は増加し続け、チョコレート市場は成長を続けている。
長期的にココアバターの供給タイトが予測されている中、CBEへの期待は高い。
ただし、競合も安値で攻勢をかけてきており、
高値に期待せず、コストダウンや更なる拡販に注力していく。

Q 2014年上期油脂部門の海外の増益(対前年+9億円)について増益内訳は。

海外油脂の増益+9億円は、欧米の増益によるものである。

米国の増益は、CBEを主として好調な販売に起因するもの。
欧州の増益は、CBE、健康訴求油脂の好調な販売に加え、従来赤字だったチョコレート事業が黒字化した事に起因している。

Q 製菓・製パン素材部門について今期は調製品の不調が響いているとの事だが、従来はそれほど利益寄与していたのか。

シンガポールの調製品事業はかねてより一定のボリュームを持っている。

Q 大豆たん白部門の事業再構築について、来期の固定費削減額と施策実施の結果の利益改善の見込みは具体的にいくらか

大豆たん白素材と大豆たん白加工食品の事業再構築について、具体的な案件について詰めている段階だ。

Q アジア研究開発センターの設立とあるが、フジサニープラザとの違いは何か。

研究開発センターの設立は、販売力強化につながっていくのか。
プラザは、お客様と、お客様の商品を考えるアプリケーションセンターであり、市場に近い北京・広州・上海などに設置している。
一方、研究開発センターは、その地域で何が好まれるか考えながら地域特性に合わせた油脂など、ハードそのものを開発する研究所である。
基礎研究などは行わない。

Q 来期の設備投資予定

2015年度でいくらかとは発表していないが、中計3か年で480億円を予定している。
来期以降に予定されている大きな案件として、日本の阪南研究所の建て替えや、張家港の第二工場としての、華南地区での工場を検討中だ。

以上